

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270301260		
法人名	医療法人社団豊仁会		
事業所名	グループホームぬくもり		
所在地	青森県八戸市石堂1-14-27		
自己評価作成日	令和4年7月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/02/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0270301260-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和4年9月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当ホームは家庭的な雰囲気の中、自由にのんびりと一緒に楽しく生活できるよう、なるべく画一的なスケジュールを設けることなく、本人のペースで生活していけるように支援しています。また、季節の行事等を積極的に企画し、楽しんで生活できるように支援しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>母体医療機関と系列の介護老人保健施設のバックアップにより、利用者の日常の健康管理や緊急時の対応ができる体制を整えており、重度化や終末期を視野に入れた医療連携にもつながっている。また、コロナ禍により外出行事がままならない中、夏祭りにパーベキューやスイカ割りを行う等、利用者の気分転換を図れるように、工夫しながら取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気の中で「自由にのんびりと、一緒に楽しく」共に生活していくことを大きな理念に掲げ、フロア内に掲示して日常的に意識するよう努めている。	管理者及び職員は、地域密着型サービスの役割を理解している。開設当初からの理念を基本姿勢として年度目標を立て、ホールに掲示している。管理者を含め職員同士がフォローし合い、理念に沿うよう方向性を統一しながらケアに当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防のため、直接会って交流することは現在できていないが、手紙のやり取りで運営推進会議を行っており、地域活動の情報収集を行い、地域の活動に参加できるように考えている。	コロナ禍前は、地域交流会や中学生の職業体験学習、婦人会や系列保育園児の訪問を受け入れたり、公民館文化祭への作品展示等、様々な交流が行われていた。現在は手紙でやり取りし、地域住民にホームの活動状況を知らせている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	手紙やファックスでのやり取りで運営推進会議等を活用し、情報提供や意見交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組みや結果の報告は、手紙やファックスを通じて行っている。その中で意見を聞き、新たな発見や改善方法等のヒントを得ている。その上でスタッフで検討を行っている。	ホームの現状や活動内容等を書面で報告している。委員は市担当課や高齢者支援センター職員、地域ボランティアからなっており、意見や感想をもらい、サービスの向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ市の職員や地域包括支援センター職員の参加をお願いしており、ファックスでのやり取りを行っている。また、必要に応じて役所に足を運んだり、電話で相談している。	運営推進会議には市の担当課職員や高齢者支援センターの職員が参加しており、広報誌を配布する等して、ホームの活動を理解してもらっている。また、様々な事例に対して行政の立場から助言をいただいたり、情報交換を行う等、連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないことを基本にしており、開設以来、拘束を行ったことはない。状況により、やむを得ない場合も想定されるが、そのようなことがないよう対応したいと考えている。できる限り、鍵もかけないよう努力しており、センサーによる見守りを行う場合もある。	指針やマニュアルを整備し、3ヶ月毎に身体拘束適正委員会を開催し、定期的に研修を実施している。やむを得ない場合に備え、説明同意書と経過観察記録を用意しており、帰宅願望の強い利用者には一緒に周辺を散歩する等、気分転換を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内部の研修やネット上で勉強を行い、スタッフの資質向上に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内部の研修やネットでの勉強、情報収集を行っている。現在まで活用した実績はないが、依頼があれば、成年後見制度の活用のため、支援も行っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の相談時の聞き取りや入居時の説明、その他、当ホームで説明できる事は説明し、理解していただく努力を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱をホーム内に設置しており、苦情処理の流れも掲示している。スタッフに訴える際は傾聴し、訪問看護師の訪問時に聞き取りをしてもらい、意見や不満、苦情があれば、スタッフに報告してもらっている。	職員は利用者や家族等との関わりを大切に、気軽に話せる雰囲気作りに努めている。毎月広報誌を家族に送付し、利用者の暮らしぶりや職員の異動等を報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回会議を行い、意見や提案を聞き、反映させている。また、適時、意見があれば聞いている。	月1回のスタッフ会議や申し送りノート等から、職員の意見を受け付けている。また、出された意見や提案内容は、会議や法人の委員会で検討する仕組みを整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の役員が頻繁にホームを訪れており、その際、職員の勤務状況や要望の把握、確認を行い、環境条件の整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内部の研修やネット上での研修を行い、スタッフの資質向上に努めている。また、状況を見て、外部の研修へも参加したいと考えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染予防のため、外部との交流は少なくなっている。必要時は電話等にて、連絡を取ることにしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面接やホームの見学を行っていただき、ホームで生活をしていくことを納得していただけるよう努力している。ただし、新型コロナウイルス感染予防のため、感染予防を徹底していただき、接触を最小限に抑えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の際の聞き取りや必要に応じ、本人の面接の機会を設ける等、状況把握に努めている。ただし、新型コロナウイルスの感染予防を徹底していただき、接触を最小限に抑えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況や介護状況、当ホームの入居状況や待機者状況も踏まえ、必要に応じて他施設を紹介したり、より多くの情報を持っている在宅介護支援センターのケアマネジャーに相談を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事をしたり、作業を行う等、共に生活することを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の状況や立場の理解に努め、本人の状況や様子を料金支払い時等に報告し、できる範囲内で協力をいただき、本人を支えていく関係作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	養護者に連絡を取り、許可をいただいてから対応を行っている。ただし、新型コロナウイルスの感染予防を徹底していただき、電話等で対応する等、接触を最小限に抑えている。	職員は利用者との日々の会話等から馴染みの関係性を把握しており、面会は感染予防を徹底した上で実施できるよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各々の個性や特徴をとらえ、利用者同士の関係や交流が継続できるよう支援している。一人で過ごすことを好む方には無理には促さず、自分のペースで過ごすことを優先している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からの相談があれば、当ホームでできる範囲で対応する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを多く持つようにし、本人の希望、意向の把握に努めている。ホームで対応できる事はできる範囲で対応を行うが、ホームで対応しきれない意向は養護者に相談し、対応してもらっている。	職員は利用者との会話の中から、思いや希望、意向を把握している。また、意思の疎通が困難な場合でも、利用者に寄り添い、その思いを共有しようと努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取りの他、日常の会話の中での情報収集し、気づいた点、気になる事等を家族に確認することにより、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のペースで一日を過ごしていただく中で、常に観察見守りを行い、心身状態や有する力等を把握するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を取り込み、関係職員で会議を持ち、日々の記録からの評価やアイデアを反映した介護計画作成に努めている。また、アセスメントの様式の検討も行っている。	介護計画作成前に、利用者から聞き取りを行って意向を把握し、介護経過記録や担当職員からの意見を取り入れ、介護計画を作成している。また、3ヶ月毎にモニタリングを行い、評価して見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子やケアの提供状況を記録すると共に、ケアプランに基づき実践記録することで、結果や気づきの情報共有を行い、介護計画の見直しに活かすよう配慮している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々の要望に対して、できる限りの対応を行っていきよう努めている。当ホームで対応しきれない要望には、その旨と理由を説明し、どのような対応をとっていくか相談している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は地域の催し物や敬老会等に積極的に参加していたが、現在は新型コロナウイルス感染予防を徹底しながら、行事等に参加できないか模索している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に協力医療機関の説明を行っている。また、他の医療施設を希望の時はそちらを優先していただき、受診は家族対応として、受診準備のケアを行っている。	アセスメントにより、利用者の既往歴や受診医療機関等を確認している。また、入居時に、希望する医療機関を受診できることを説明している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制をとっており、適時、相談しアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医との情報交換ができる体制をとっている。早期退院ができるかどうかは当ホームのスタッフでは判断できないため、主治医と家族の判断、当ホームで対応可能であるかどうかで判断している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階での意思確認は行っていない。心身の状況が悪化してきた際に、家族と話し合っ方針を立てている。	指針を整備し、ホームとしての方針を明確にしており、協力医療機関との24時間連携体制を整えている。また、家族の意向やホームの状況変化がある時は、随時方針について話し合いを行う体制となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成、勉強会を行っている。また、協力医療機関や併設施設の看護師との協力体制をとっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練の実施と防災マニュアルの作成、掲示を行っている。運営推進会議で話し合いをする機会を設け、協力を得られるよう働きかけを行っている。	火災避難訓練の他、風水害と地震対応の訓練を実施している。防災マニュアルや緊急連絡網を整備している他、2日間程度の保存用食料等を保管しており、定期的に交換をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いには注意を払い、自尊心を傷つけるような言葉遣いを避けるよう努力している。また、勉強会を開催し研鑽に努めている。	職員は利用者を年長者として敬意を持ち、苗字に「さん」付けで呼びかけている。また、利用者一人ひとりの個性を理解した上で、それぞれに相応しい関わりを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	馴染みの関係作りに努め、希望を話しやすいよう努力し、会話の中で希望等を聞き出すようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り一人ひとりのペースで過ごせるよう配慮している。場合によっては希望に沿えないこともあるが、説明をしっかりと行うよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理髪に関しては委託業者により行われていたが、新型コロナウイルス感染防止のため、業者の立ち入りが困難となったことから、希望者には職員による無料の理髪を行う等の対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好、身体、認知症の状態により、状況に合わせて支援をしている。	苦手な食材には代替品を提供している他、誕生会や季節の行事毎に利用者の好物を取り入れている。また、利用者の状況に応じて、下拵えや食器拭き等を行っていただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事量をチェックし、記録を残している。水分量に関しては、あまり自分で飲まない利用者に対しては、飲水量のチェックを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがいや義歯洗浄等を、個々に応じて支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	状況により対応している。利用者によっては、夜間の安眠のため、あえてオムツを使用することもある。その方の状態により、尊厳を損なわないように配慮して対応している。	毎日排泄状況を確認し、記録している。職員は尊厳を守りながら、一人ひとりに相応しい声がけやトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材や飲み物等の工夫や、適度な運動を生活の中に取り入れている。それでも便秘がちな際は、看護師やかかりつけ医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	なるべく時間や曜日を設定せずに対応しているが、希望に沿えないこともあり、お詫びの説明を行い、納得していただいている。	利用者の羞恥心に配慮し、同性介助を行っている。また、入浴の拒否がある場合には無理にすすめず、対応する職員を変えたり、時間をおいて声がけする等、工夫して取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分である程度判断できる方には、マイペースに過ごしてもらっている。疲労感や身体状況、引きこもりや身体機能の低下が懸念される場合等、状況により、休息や離床を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容説明書をいつでも目を通せる場所に置き、職員全員に周知できるようにしている。また、一人ひとりに合った支援を実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や一人ひとりに合った役割があり、本人の楽しみ事を増やし、気晴らしができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染予防のため、外出が制限されているが、状況を見ながら感染予防を徹底し、外出の機会を設けることができるよう検討している。	現在は外出行事を行うことが難しい状況だが、コロナ禍前は、利用者の希望を取り入れた外出行事を企画している。また、天気の良い日は、ホームのベランダや敷地内で外気浴を行い、気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理(お小遣い程度)は基本的にはホームで行っている。利用者が希望された場合、本人がなくなることがあることを家族に説明し、納得してもらった際には、本人に管理してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、電話や手紙のやりとりをいつでもできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光や音に関しては、適時、レースのカーテンを引き、不必要には大きな音を出さないよう努めている。飾り付けや季節の食べ物、話題等により、季節感を演出している。	ホールにはソファやテーブルが配置され、家庭的な雰囲気である。また、温・湿度計の確認や、床暖やエアコン等の使用により、快適な空調となるように管理している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間を食堂、ソファコーナーの2ヶ所に設けている。利用者本人の判断で、好きな場所で過ごせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の説明の際に、本人の使い慣れた物や好みの物を持参するよう説明しており、できる限り本人の意向に合わせたいと考えている。	利用者が落ち着いた気持ちで居室で過ごせるよう、馴染みの品や家具等の持ち込みを働きかけており、家族写真やテレビ、ラジオ等が持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺りの設置や、本人の機能に合わせた補助具の使用等、工夫を行っている。		